（別紙4）　　令和　3　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2373300546		
法人名	社会福祉法人不二福祉事業会		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	愛知県蒲郡市竹谷町奥林29-1		
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2373300546-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・入居者様一人一人の個性を尊重している。
・対応の難しい方（帰宅欲求の強い方、入浴拒否の強い方他）にも辛抱強く向き合い。ご家族にも協力して頂いてケアを行っている。
・ホームで作った出来立てで温かい食事を提供している。
・毎月、季節を感じられる行事、レクリエーションを計画して実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者の外出が困難になっている中で、飲食店のテイクアウトを活用しながら様々な食事の提供が行われており、利用者に食事を楽しんでもらう取り組みが行われている。日常の支援についても、利用者がその人らしく生活することができるように、職員間で利用者を担当しながら一人ひとりに合わせた支援内容の検討が行われており、利用者がホームで安心した生活を継続することができるような取り組みが行われている。ホーム建物の2階には、地域包括支援センターが併設されていることで様々な方が訪問しており、情報交換等が行われている。ホームでは、地域包括支援センター職員とも協力しながらホーム前の敷地の整備を行い、駐車場を確保する取り組みが行われている。駐車スペースが確保されたことで、外部から訪問する方が駐車スペースに困らないような配慮が行われている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念が玄関や事務室に掲示されており、常に意識して日々の支援に努めている。ﾐｰﾃｨﾝｸﾞの時にも話し合って理念に基づいた支援の統一を図っている。	ホーム開設時につくっている理念をホームの支援の基本に考えながら、職員が日常の支援を通じて、理念の内容の意識向上につなげている。また、ホーム内への理念の掲示も行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民として自治会に入っている。例年は盆踊りやお祭りなどの地域行事にも参加している。	感染症問題が続いていることもあり、地域の方との交流が困難になっている状況が続いている。ホーム管理者も協力しながら駐車場の整備を行っており、関連事業所を含めて、地域の方が訪問看護しやすい環境整備が行われている。	以前、交流を行っていた保育園が閉鎖される等、地域の状況が変化していることもあるため、感染症の状況もみながら、可能な部分から地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	例年は買い物や散歩、地域行事への参加により、地域の方達と交流の機会を持ち、認知症の高齢者への理解が得らえるように努めている。ここ2年程、自粛の為行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年は、地区の役員、市の担当者、包括支援センターの職員を招いて行っているが、現在は集まっての会議は行えていない。	会議については、書面による実施が続いているが、例年は、会議に際に市職員による出張講座の機会をつくる等、会議を通じてホームの運営に反映するような取り組みが行われている。	書面による会議の実施が長期化していることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の介護サービス連絡協議会に入っている。	市担当部署や広域連合との情報交換については、運営法人を通じて行われており、必要に合わなてホーム職員も参加する機会をつくっている。また、ホーム建物の2階に地域包括支援センターが開設されており、状況等にも合わせて交流の機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者の人権を守るという意味で玄関、門扉は夜間以外は施錠していない。身体拘束についての委員会は引き続き行っている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、開放的な玄関については、併設事業所の職員も協力する取り組みが行われている。また、毎月のミーティングを通じた身体拘束に関する確認や研修等の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	職員ﾐｰﾃｨﾝｸﾞの時に、高齢者虐待の事例を紹介し、職員間で意見を出し合うなど、勉強会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護について職員ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ時に勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際、ご家族や利用者に納得して頂けるように説明を行い、同意を得ている。退所される際も、相手の立場になって今後の生活についての不安を軽減できるように相談に乗っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会を制限している為、例年より多めに電話にて日々の様子を伝えるようにしており、その際にご家族の意向や思いを伺うように努めている。	家族との交流が困難になっているが、例年は、運営推進会議等を通じた家族との交流の機会がつくられている。家族からの要望等については、管理者が対応し、必要に合わせて運営法人に報告している。毎月のホーム便りの他にも、随時の連絡も行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な職員ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ以外にも、日々の業務の中で気づいた事等をその都度話し合い、業務の改善を行っている。	毎月の職員会議が行われているが、1ユニットのホームであることで日常的にも職員間で情報交換が行われており、管理者を通じてホームの運営につなげている。また、管理者との個別面談の機会がつくられており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課により各自が向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修は段階に応じて参加できる機会を設けている。今年度は参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の連絡協議会に入っている。同法人のｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑとの合同行事は自粛しており2年行っていなし。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接でこれまでの生活歴を聞き、本人の求めている事、不安に感じている事を理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所間もない期間は、家族への近況報告をこまめに行い、常にコミュニケーションを図って話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族のﾆｰｽﾞを把握して共有することで信頼関係を築き、最善の対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常の家事に対しても入居者主体で支援している。入居者の生活の場であることを常に意識して、日々関わりを持つように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	これまでの家族関係を理解し、入居者の情報を共有することで、共に支え合う関係を築いている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	例年までは入所前に通っていた場所へ継続して通えるように支援したり、知人の面会もあり、馴染みの人との関係が途切れないように支援していた。現在は、外出、面会とも遠慮して頂いている。	利用者の入居前からの関係の方との交流は困難になっているが、交友関係の広い方については、今までの関係の方との交流を継続している方もいる。また、受診による外出を通じて家族との交流も継続しており、感染症対策を行いながら関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人一人の個性を尊重してコミュニケーションが取れるようにサポートしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	移り住む先の関係者には本人の生活等の情報をを伝えて、新しい生活へｽﾑｰｽﾞに移行できるようにｻﾎﾟｰﾄしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ｹｱﾌﾟﾗﾝ作成時には、本人とゆっくり話す時間を設け、生活への希望や意向、本人の思いを聞き取り、ｹｱﾌﾟﾗﾝに盛り込んでいる。また、ご家族や前のｹｱﾏﾈｰｼﾞｬｰからも情報得て、ｹｱﾌﾟﾗﾝ作成している。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握と職員間での共有につなげている。また、毎月のカンファレンスの際には、職員間で利用者一人ひとりの現状確認が行われており、意向等を日常の支援につなげる検討が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	申し込み時や、入所決定時に生活歴、環境、日々の生活の様子、趣味、既往歴等を聞き取り、ｹｱﾌﾟﾗﾝに盛り込んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員ﾐｰﾃｨﾝｸﾞの際、本人の出来る事、出来ない事などの情報交換、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の思いや意向を聞き、毎月職員ﾐｰﾃｨﾝｸﾞにて意見交換しながらｶﾝﾌｧﾚﾝｽを行っている。	介護計画は、利用者の変化等にも合わせて見直しが行われており、職員間での検討も行いながら、6か月でのモニタリングが行われている。また、日常生活の場面に合わせた記録を残す工夫を行い、利用者の状態変化等を把握につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の介護記録に食事量、ﾊﾞｲﾀﾙ、入浴、排便など日々の様子を記録し、職員間で共有できるようになっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	定期、不定期（体調不良時）の受診は基本的にはご家族付き添いにて行って頂いている。緊急時はﾎｰﾑにて臨機応変に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	大正琴のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの方が定期的に来て下さっていたが、現在は、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの方の訪問を遠慮して頂いている。警察、消防等何かある際は協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所以前のかかりつけ医にご家族が付き添って受診して頂いている。受診の際、日頃の様子やﾊﾞｲﾀﾙ等の情報を提供している。	現状、医療機関の医師による訪問診療が行われていないこともあり、利用者は今までのかかりつけ医を継続しており、家族の協力を得ながら受診が行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員により、日常の健康管理や医療活用の支援、薬や疾病についての情報などを介護職に伝え、緊急時に対する支援にj繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、安心して治療ができるように、医療関係者と情報交換を行っている。退院後は今後の生活支援について主治医、家族、本人と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ﾎｰﾑでは現在看取りは行っていない。入居者の状態に変化があるごとに本人、家族の希望を考えて今後の行き先やｹｱの方針を共有して支援に繋げている。	ホームでの看取り支援が行われていないことを入居時から説明が行われており、介護度や利用者の身体状態等に合わせて、次の生活場所への説明等が行われている。運営法人で複数の特養を運営していることで、関連の特養へ移行している方が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	市の出前講座を利用して消防署員による人工呼吸、心臓マッサージ、AEDの使用法など、救急救命の講習を定期的に受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練や避難経路の確認、消火器の取り扱い方など、の自主訓練を年2回行っている。非常時の停電を想定して蓄電システムを導入している。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。例年は、運営推進会議を通じた防災の取り組みが行われている。また、水や食料等の備蓄品の他にも、ホーム内に蓄電池の設置が行われている。	近隣の方との交流が中断していることもあり、災害に関する協力関係についても中断していることもあるため、可能な範囲で災害に関する協力関係の取り組みにつながることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	家事等、お手伝いをして頂いた時には感謝の言葉をかけ、相手の人格を尊重してﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰを損なわないような対応を心掛けている。	ホームの理念にも利用者の個性を大切にすることが掲げられてあり、職員が日常の利用者への対応にもつなげている。また、利用者への声かけや対応等についてミーティング等で確認が行われており、職員の注意喚起にもつながっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で、常に声掛けや様子の観察に努め、出来るだけ問いかかるように接して、入居者の方が自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日中は共有スペースで過ごされる方が多く、それぞれ気の合う人同士で会話を楽しまれている。また、本人の希望で自室で休まれる方もいたり、各自のペースで自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来るだけ本人に着たい服を選んで頂けるように声掛けしている。自ら選ぶことが難しい方は職員と一緒に選んだり、本人の気持ちに添った対応を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を決める段階から入居者の方たちの希望を聞くように心掛けている。食事の準備、食事、片づけを職員が見守りながら一緒に行っている。	前日にメニューを考え、ホームのキッチンで調理が行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加している。外食が困難な状況でもあり、テイクアウトで食事を提供する取り組みが行われており、利用者の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	家庭的な料理でﾊﾞﾗﾝｽの取れた献立になるように考えている。入居者の状態に応じて刻んだり、小皿に分けたり食べやすいように配慮している。お茶は飲みたい時に飲めるように用意がしてある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、歯磨きして頂くように声掛けして、道具を準備している。見守りにより歯の痛み、義歯の不具合など見逃さないように観察している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	入居者ごとの排泄の間隔を把握して、声掛け、誘導してのトイレでの排泄を支援している。尿意便意の無い方、後始末の難しい方には、本人の気持ちに配慮してさりげない介助を行うようにしている。	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報の共有を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。トイレの場所が分からない方には、職員間で声かけのタイミング等を検討し、トイレでの排泄が継続できるように取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の状態を記録して把握すると共に、家族、主治医などに情報を提供することによって、薬の調整などに役立つように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	好みに合わせて順番を調整したり、介入の仕方を工夫している。ﾏﾝﾂｰﾏﾝで見守り、介助を行っている為、一人一人とゆっくり会話できる機会となっている。	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも、職員間で入浴方法等の検討を行いながら、状況に合わせて家族にも支援をお願いする等、定期的な入浴につなげている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一日のゆっくりとした時間の流れの中で、各自好きな時に休息されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	現在服用されている薬の説明書がファイルされており、変化があった時は申し送りﾉｰﾄに記入し、情報を共有している。服薬の際は飲み終わるまでの確認を必ず行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の出来る事、出来ない事を把握し、日々の生活中での張り合いや、趣味の支援をしている。毎月の行事で、季節を感じられるようなｲﾍﾞﾝﾄを企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍前は、散歩や買い物、行事での外出など、出掛けることも多かったが、現在はほとんど行えていない。	感染症問題が続いていることもあり、利用者の外出が困難になっている。現状、ホームでの外出行事は行われていない。なお、当ホームに訪問診療等が行われていないこともあり、家族による受診が続けられており、利用者の外出の機会につながっている。	利用者の外出行事が行われていない状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら利用者の外出行事の再開されることを期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者の金銭は預り金として管理しており、必要に応じて嗜好品や、日用品を購入している。毎月ご家族には収支報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望に応じて電話や手紙のやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有スペースは日当たりが良く外の景色も見やすいことから四季を感じることができる。道路から奥に入った所なので騒音も少なく静かである。	ホーム内は広めの空間が確保されている他にも、食堂とリビングが別の部屋に分けられている等、利用者が日中の時間をゆったりと過ごすことができる生活環境が整えられている。また、ホーム全体が和風の雰囲気であり、利用者に馴染みやすい環境でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースでは、それぞれ自由にTVや新聞を見たり、ゆったり過ごされている。気の合う者同士で会話されていることも多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には使い慣れた家具や私物が持ち込まれている。家族の写真を飾っている方もいる。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせて入居前からの馴染みのある家具類の持ち込みが行われている方がいる一方で、持ち込みが行われていない方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室入口には表札を掲げている。持ち物には分かりやすいように記名がしてある。		